

平成23年度第1回 市長と語ろう「まちづくりふれあいトーク」

開催日時 平成23年5月24日(火)午後4時

開催場所 釧路市総合福祉センター4階中会議室

(開会の挨拶)

【市長】今日はお忙しいところこのような機会を作っていただきまして、ありがとうございます。この「まちづくりふれあいトーク」ですが、行政というのは難しいもので、どうしても見方が同じと言いますか、高さや角度が変わると物の見方も変わりますので、いろいろな活動をされている方々からさまざまなご意見をいただきながらそれを



生かしていきたい、こんな思いの中で一昨年からスタートさせていただきました。改めて皆様の貴重なお時間をいただき、感謝を申し上げます。

今日は自主夜間中学「くるかい」さんに伺い、日頃の活動内容をお聞きしたうえで、後程、見学させていただきたいと思っております。また、併せてこのたび釧路市と「くるかい」さん、釧路ポイントカード事業組合さんが連携して国の公募事業に応募し、採択いただきました「社会イノベーション推進のためのモデル事業」についても話題にしたいと思っております。本日は、ご意見をいただきながら有意義な時間にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それではまず、自主夜間中学「くるかい」さんの取組につきまして、講師の方から順にお話しをお聞きしたいと思います。

(自主夜間中学「くるかい」活動の紹介)

【参加者A】

くるかいは平成21年4月に設立されました。自主と付いてますのは、夜間中学というのは公立と自主の二つありまして、公立の夜間中学は東京と大阪に集中し、全国で35しかありません。そうした中で自主的な夜間中学を作ろうということで、全国で約25か所、北海道では札幌、旭川、函館、釧路にあります。自主夜間中学ならではの難しさ、強みがありますが、様々なサポートを受けながら3年目を迎えています。ここでは学齢期に何らかの事情があって学べなかった方の学びを支援することが活動の取組になります。戦争や

家庭の事情などで学齢期に十分に学ぶ機会がなかった方を対象に、10代から70代までの方が学ばれています。スタッフは完全なボランティアで35人、学習者が28人です。スタッフは退職された教師、大学の教授など様々ですが、ありがたいことにほぼマンツーマンでの指導ができています。毎週火曜日の夜に、この総合福祉センターで活動しています。

【参加者 B】

私は「くるかい」で3年間学んできましたが、1年目はなかなか先生が決まらず、1週間に1回ずつ先生が代わってしまうことがあり、辞めようかと考えたこともありましたが、担当の先生が固定になってからやってみようという気持ちになりました。今学んでいます。読み書きがどこまでできるのか、あまり覚えていないのではと不安に思うこともあります。あと何年続ければちゃんとできるのかなとも思いますが、1対1で教えてもらう形式はとても良いと思います。

【参加者 C】

私はスタッフとして参加していますが、学習者の方がそのように思ってくださいるのはありがたいです。ここで学ぶ教科は国語、数学、英語、音楽が中心となります。実は必ずしも教える、教えられるという関係にはなっていません。たとえばそれまで家の中にずっと閉じこもっていた方が週に一回でも出てくることで話し相手ができるなど、少し世界が広がることをお手伝いする、それに乗じて教える私どもの側も同様に世界が広がっている、お互いさまという関係で、一緒に何かをやっている気がします。

【参加者 D】

私は学習者の一人ですが、この学校で一番言えることは、非常に楽しい学校だということです。学習者もスタッフもアットホームな関係が築けていますし、私は通って3年になりますが、3回ほどしか休んだことがありません。また、私にとって英語という教科は未知の部分だったのですが、興味を持って学習できています。こんなに楽しい学校を広く皆さんに知ってもらいたいです。

【参加者 E】

私は音別から週一回通っています。雨や雪のときなど正直言って行くのが面倒と思ってしまうこともありますが、楽しいから続けられると自分で思っています。どこか学校を借りて黒板があるところで学習できたら、本当の学校のような雰囲気学べるのという気持ちも持っています。私のグループでは女性が多いのですが、仕事や家庭など様々な悩みを相談しあっています。そんな相談でも大事なかなと思いますし、私自身の勉強になります。これからも学習プラスアルファで皆さんと関わっていきたいです。

【参加者 F】

私は「くるかい」を運営している者です。私を含めてスタッフが毎週指導に参加するのは大変ですが、学生の真摯な態度を感じながら支援ができて、だんだん良い形になってきていると思います。

【参加者 A】

お話しにあったようにスタッフと学習者は非常に良い関係を築けていますが、スタッフの確保がこの活動の生命線だと思います。スタッフはお金をもらってわけではないので、続けるのが難しくなるスタッフもいます。なんとか我々もやっていますが、志だけではどうしようもない。たとえば教室を確保するのも大変です。現在はここの教室を一年更新で無料で貸していただいておりますが、教室の確保は毎年の懸案事項になります。

【市長】

お話しを伺って、毎週、学習者、スタッフの皆さんがそれぞれに大変なご苦勞のなかで、気概を持って活動されていると感じました。続きまして、釧路ポイントカード事業組合さんからお話しいただけますでしょうか。

(スキップカードの紹介)

【参加者 G】

釧路ポイントカード事業組合は平成13年に誕生し、スキップカードの愛称で市民に親しまれています。現在65,000人以上の方が持っているカードで、100円で1ポイントが貯まります。市内の約170店舗の加盟店でポイントが貯まり、使えるという仕組みで、市内でお金が回るシステムということになります。



【参加者 H】

今回、そのスキップカードにポイントを貯める、使うだけでなく名称を「心の寄付」としてポイントの寄付ができる機能を追加しました。東日本大震災への寄付は現在32,000ポイントになりました。今後、震災以外にも活用ができるのではと思います。「くるかい」の皆さんへは直接的な支援ができませんが、寄付機能を活用したつながりでお役に立てればと思います。この制度を普及し、ポイントを集めるのが私たちの仕事です。

(域内循環ツールを用いた不就学者支援体制構築事業について)

【市長】

スキップカードの寄付機能を活用した域内循環の重要な取組についてご紹介いただきました。釧路市では平成 21 年 4 月に中小企業基本条例を制定しました。そこでポイントとなるのが、お金を地域の中で循環させていこうという考え方です。振り返ってみますと今はデパートはありませんが、その当時の調査では市内で得たお金のうち 58%しか市内で消費していないとのことでした。残りは通販や他地域で使われていることになり、これでは地元の経済はどんどん縮んでいってしまいます。地元デパートでの買い物が少なかった結果、釧路からデパートが無くなってしまったように、過去の歴史からも地域内でお金を使うということは非常に重要なことです。

また、先程「心の寄付」というお話がありました。日本には寄付の文化が無いと言われています。ニューヨークのメトロポリタン美術館を訪れるアメリカ人の夫婦は子供に、この美術館は自分たちが寄付して成り立っている美術館なんだよと教えているそうです。みんなでこの美術館を支えているんだというこのスタイルは素晴らしいですね。日本では、この事業をバックアップしたいというようなことがなかなか出来ていませんよね。そのような中で、スキップカードで得たポイントを寄付していこうという事業と「くるかい」さんの活動をマッチングさせ、社会イノベーション推進のためのモデル事業として、社会的な制約がある課題を解決していこうとする取組を市民や企業、行政が連携して実証実験するという内閣府の高いハードルを越えたというのは大変素晴らしいことです。

提案した事業の名前は「域内循環ツールを用いた不就学者支援体制構築事業」と言います。具体的には、スキップカードの寄付機能を生かして、地域の企業・個人などからスキップカードのポイントにより「くるかい」さんへの寄付を募ります。心の寄付がその時々のみちづくりテーマを設定して寄付を募るのに対して、これはいわばスポンサー事業です。何に対するスポンサーかと言えば、地域の社会人に対する基礎学力養成のボランティア活動への支援です。基礎学力不足は地域経済にも影響を与えられています。このため、この事業の中では、スポンサーを募集するだけでなく、基礎学力養成を担うボランティア講師の養成も併せて行います。

また、市民にもボランティア講師の養成に対する関心をもっといただくために養成講座を開催し、養成のための教材の開発も行います。この部分については、「くるかい」さんの全面的な協力をいただこうと考えております。

そして、こういう取組を率先してバックアップするような形というのが、これからの地域づくりに欠かすことのできないものだと改めて感じる事ができました。

【参加者 A】

市長からお話がありましたとおり、この事業はユニークで非常にありがたい取組だと思います。今まで夜間中学は行政に公立の中学校を作って欲しい等、要望をあげて対立関係

の中で問題を解決しようとしてきたのですが、釧路はそうではなくて、お金がたとえ無い中でも知恵を絞ってアイデアを作り上げていただいた。我々「くるかい」のスタッフ以外にも同じような志を持っている方々が立ち上がれるような仕組みがあるというのは、地域が育つような活動として素晴らしいし、ありがたいと思います。また、このような取組を他の地域に発信できると、なお素晴らしいと思います。

【参加者 F】

「くるかい」には子供達が見学に来ることがあります。今まで勉強って嫌だなと思っていた子供達が、学ぶことの大切さを実感してくれます。この大切さを子供だけでなく大人も実感して欲しいし、今の教育の何を改善したらいいのかなどが段々見えてくるのでは無いかなと思います。

【参加者 H】

地域の方は「思い」は持っているのですが、なかなか実行に移せないということがあると思います。ただ、この活動が活発になり、見えてくると一人ひとりの意識も変わってくると思います。

【参加者 I】

お話を聞いていて、「くるかい」さんへ寄付できる仕組みを作れたことは非常に喜ばしいことと思えました。私どもはポイントカード事業協同組合である前に、この街に暮らし、この街を思う心を持っています。その心を色々な形で反映できるツールとしてポイントが使われるというのは本当に素晴らしいと思います。また、この事業に協力させていただいていることは光栄なことですし、一人ひとりがカードを使っていただくことで、地域を支えてくださっているということに対し、我々も頑張っていきたいと思います。

【参加者 G】

現状では、なかなかスキップカードを使える店舗が少ないので、現在の取扱店舗である170店舗から更に拡大したいと思います。今回は企業・団体向けにブルーカードを作り、個人も企業も利用者の拡大を図っております。カードの取組は我々商業者が宣伝しなければと思い、もう一度スキップカードを宣伝し、皆さんに使っていただき、ポイントを有効活用していただこうと思っています。

【参加者 H】

加盟店の増加状況はホームページで紹介していこうと思います。カードを使う方が増えると寄付されるポイントも増えて、「くるかい」さんの活動の手助けにもなります。

【参加者 B】

今回の震災でカードを寄付に使うということでしたが、どのような方法なのでしょうか。

【参加者 H】

カードを利用して買い物をすると100円で1ポイントが付きます。このポイントをMOO、わっと、和商市場、カード事業組合事務局のいずれかの窓口で、ポイントの寄付として申し出ていただくと寄付になる、というシステムです。現在の32,000ポイントというのは買い物の金額でいくと320万円にもなり、それだけの金額が地域内で使われたということにもなります。ちなみにカードは無料で作れます。

また、カードにはボランティア機能というものが付いています。ボランティアをされる方は見返りを気にせずされていると思いますが、していただいた側は感謝の気持ちというものを持っています。それをボランティアポイントとして表していくことで、ボランティアする側もこれだけやったんだ、というものがあれば意欲にもつながるのではないかと思います。

【参加者 A】

今回のモデル事業では我々スタッフのような教える側を支援するための教材づくりという面もあり、我々にとっても非常に良い影響があると思います。また、こういった活動はどこも手探りでやっていて、なかなか各団体で情報を共有できない点があり、我々もようやくある程度のものが出来はじめたので、次にやりたい団体にノウハウを伝えていくことが大事ですし、必要だと思っています。



(閉会の挨拶)

【市長】

お話を聞いていて、「くるかい」さん、釧路ポイントカード事業組合さんともに地域の中で何かを進めていこうという思いは大変力強くありがたいと思いました。また、生涯学習の面から見ましても、いろいろ学んできたことを発表する場がある、聞いてほめてもらう場所があるということが大事ですが、そういう場所が釧路にもしっかり存在しているという印象を受けました。市としてもこういった取組が前に進んでいけますように、また、多くの方に知られるように、そうすることで市民の皆さんが自分もやってみようと思うような流れが出来てくると素晴らしいことです。今日は大変力強い取組をお聞きすることができました。ありがとうございました。